

少年消防クラブニュース

発行/ 財団法人 日本防火協会
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
 (日本消防会館内)
 TEL 03(3591)7121
 FAX 03(3591)7130
 http://www.n-bouka.or.jp
 (季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社

指導者からの便り

本号では、地域の中で少年消防の指導に当たって
 おられる消防団員及び全校生徒を対象に防災教育を
 行う中学校の校長先生から、少年消防の育成にか
 ける思いや活動状況について寄稿いただきました。

地域と消防少年団

東京都 日本橋消防少年団

指導者(消防団員) 美添 哲彦



知識や技能を伝えたい

私は、地域の健全な利益
 増進と損害防止に少しでも
 役立ちたく、東京都心、特
 に中央区日本橋地域におけ
 る地域振興、防災防犯、青
 少年育成などを実施する十
 数組織に所属し、その他に
 も各種の地域組織において
 活動をさせていただいてい
 ます。ほぼ休日返上で、仕事
 後の活動も多いですが、活
 動自体にかなりの充実感が
 あるため、負担に感じるこ
 とは少なく、一生懸命に取
 り組んでいるつもりです。

日本橋地域特有の活動

さて、日本橋消防少年団
 ですが、東京消防庁の全面
 的支援の下で各種の基本訓
 練(規律、初期消火、応急
 救護、通報など)、体験学
 習(消防団合同訓練、防災
 拠点訓練、防災展示会見
 学、消防施設見学など)、
 行事参加(パレード、豆ま
 き、餅つきなど)、野外活
 動(キャンプ)などの活動
 を月2回行っています。

これらの地域活動の一環
 として日本橋消防少年団に
 所属しています。指導者と
 いう立場ですが、まだ入団
 2年目で、私自身も少年団
 員達と共に学んでいく立場
 にあると言えます。とは言
 え、消防団に所属している
 他、防災防火関係資格も10
 種類程度は取得しているた
 め、これらの知識や技能、



その内、日本橋地域特有
 かつ、少年団の代表的な
 活動として「日本橋を洗
 う会(橋洗い)」をご紹介します。

橋洗いは、毎年7月に日
 本橋地域の中心的シンボル
 である日本橋を綺麗に洗浄
 するために開催されていま
 す。地元住民、団体、企業、
 行政が一体となって実施し
 ている中に消防少年団も参
 加しています。橋洗いは、
 基本的に消防団の放水とデ
 ッキブラシで橋を磨いてい
 くのですが、少年団では防
 災標語を貼った特大のデッ
 キブラシを作成し、防火防
 災の広報を行っています。

また、消防団員の可搬ポン
 プを活用して、少年団員達
 が放水訓練を行ったりして
 います。ただ、少年団員達
 や周囲の子供達にとって
 は、絶対の水浴びの場とし
 て扱われ、最後は消防用の
 水槽に交通少年団と一緒に
 入ってプールにしてしま
 いました(以前からプールに
 なる気はしていました
)。消防用の資機材に
 慣れ親しんでもらえな
 ら、こういうのもありかと
 は思います。一方で、危険
 なことがないようにしっか

り指導していきます。なお、
 去年、少年団用にスタンド
 パイプ訓練セットが供与さ
 れたことで、今後は放水の
 機会が増える見込みです。

地域への帰属意識や愛着を
 日本橋地域は日本橋川、
 日本橋、高速道路、地下
 鉄、周囲の老舗、背景の超
 高層ビル群といった、歴史
 の積み重なりを感じるこ
 の出来る場所でもありま
 す。私は、少年団員達が橋
 洗いを通して日本橋に親し
 み、大切にすることで、次
 の時代においての日本橋地
 域を共に守り、創っていく
 気持ちを持ってもらえるこ
 とに期待しています。

この他にも少年団は、
 日本橋地域各所の行事や消
 防団の行事に参加していま
 す。このように地域全体の
 行事に参加出来ることは、
 大人でも大変なことで、消
 考えま

私自身は少年団員達、子
 供達に指導をするのは上手
 くはないかもしれませ
 んが、精一杯、全力を尽くす
 気持ちで活動しています。
 消防少年団などの子供達
 と関わる活動においては、
 集団秩序を保たせつつ、彼
 らの目線でコミュニケーション
 を取りながら、楽しく
 て参加しやすい雰囲気を作
 り、信頼関係を築き、必要
 な助言をしていくというよ
 うな指導をしていきたいと
 考えま

無理のない実践的な活動を目指して

富山県 富山市立城山中学校少年消防クラブ

富山市立城山中学校校長 田村 範仁



全校生徒がメンバー

城山中学校少年消防クラ
 ブは、富山平野を東西に分
 ける呉羽丘陵の南端にあり
 富山県のほぼ中央部に位置
 している富山市中町にあ
 る城山中学校の全校生徒3
 52名がメンバーとなっ
 ています。近年は、石川・新潟
 の両県で地震による大きな



が全国最低なことから、校
 区内の火災も年間に数件と
 少ない。このように災害が
 少ないことから、防災意識
 が高いとはいえない地域で
 ある。

最近、校区の中央に呉羽
 山断層帯があり、今後30年
 の間にマグニチュード7・
 3程度の地震の発生する確
 率が高いことが予想され
 た。そこで、全校生徒の防
 災意識を高め、災害への対
 応能力を高めるために、中
 学校としてモデル少年消防
 クラブの選定を受けること
 にした。また、活動は2年
 間のモデル校の選定がなく

なっても継続できるように
 配慮している。

防災教育の取組
 ①実践的な避難訓練
 従来は火災を想定した避
 難訓練のみを行っていた
 が、地震と火災を想定した
 ものに変更して年間3回行
 っている。各回の主目的は、
 1回目は地震発生時の自分
 の身の安全確保と避難経路
 の確認、2回目は1回目の
 実践と自衛消防訓練と被災
 者搬送訓練(昨年度はバケ
 ツリレーと煙中体験)、3
 回目は降雪・積雪時の避難
 である。毎回、婦中消防署
 (以下、消防署)から署員
 を派遣してもらうことも
 に、2回目の自衛消防訓練
 では消火器を使用した初期
 消火、消火栓を利用した放
 水訓練等を行っている。ま
 た、消防車を配置するなど
 消防署の全面的な協力を得
 ながら実践的な避難訓練を
 行っている。

(2面に続く)

「防火防災に関する作文」・「防火ポスター」コンクール開催

生活協同組合 全日本消防人共済会では、小中学生を対象に毎年2つのコンクールを実施しています。最優秀賞受賞者には、5万円相当の記念品を贈呈するとともに、12月末に日本消防会館(東京都港区)へご招待のうえ、表彰式を行います。ポスターの部の最優秀作品については、全国統一防火標語を文字入れして防火ポスターとして、また作文の部については、佳作以上の作品をとりまとめて作文集として、それぞれ全国に配布します。詳細につきましては、日本消防協会のホームページ(<http://www.nissho.or.jp>)をご覧ください。多数のご応募をお待ちしています。



(1面から続き)

②消防署体験

富山県では、県内のすべての中学2年生を対象に、1週間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加する「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」事業を実施している。

この事業を活用して、希望する生徒を校区内にある消防署へ派遣し、5日間職場体験活動を実施することにより、リーダー育成をしている。

平成11年度は4名の生徒が婦中消防署を希望し、消防署員の指導のもと体力養成や小型動力ポンプを使った揚水作業体験、ホース延長訓練、放水訓練、心肺蘇生法、消火栓確認業務等を体験してきた。その成果は、避難訓練で行う消火訓練で披露したり、授業での心肺蘇生法の学習の際に補助をしたり、地域の防災訓練への参加などで生かしている。

③授業でAED講習

保健体育の授業で中学3年生全員と教員を対象に、AED操作を中心とした心肺蘇生法を学ぶ救命救急訓練を実施している。消防署から人形模型とAED、講師を派遣してもらい、訓練終了時には普通救命講習修了証を交付してもらっている。

④地域の防災訓練に参加

消防署で体験活動してきた生徒を中心に、地域で行われる防災訓練に積極的に参加させている。校区の神保地区で3月18日に行われた春の総合防災訓練には、

十数名の生徒が消火栓を利用した放水訓練の模範演技の披露と被災住人の搬送作業に参加した。

地域の団体と連携したい活動を継続する上で、生徒や教職員の負担をあまり増やさないで効果の高い防災訓練等を実施していくことが求められる。そこで、生徒の防災意識をより高めるとともに安全な生活を送

随想

地域が育てる少年消防クラブ

日本防火協会 見山 貴一

子供たちは今

走れメロス、十五少年漂流記など子供の頃に読んだ本は今でも覚えている。また、子供会や夏休みのキャンプなど懐かしい思い出がある。子供たちは今、何を学びどのような活動に参加しているのだろうか。

さて、小中高でのいじめが続いているという。報道によれば、冷やかしゃ悪口、仲間外れや集団無視が行われている。いじめは社会問題化しており、テレビ等に出演するコメンテーター諸氏の中には、決まったように「昔は地域に頑固親父やガキ大将がいた」などと言うものがあるが、いつもそこで話が止まってしまふ。それ以上進まないのがある。もうあの時代に戻れるはずもないからだ。このような中で、少年消防ク

れるようにするために、安全確保を目的に現在実施している避難訓練を発展させ、実際に災害が起きた場合に役立つ実践的な訓練に見直していくことや、地域の消防署や消防団、町内会等の各関係団体と連携した防災訓練や講習会を計画するなど、今後とも無理なく様々な訓練を実施していきたい。



夏季キャンプに集合

域に貢献する意識を育む良機でもある。レクリエーション活動も多くのクラブが実施している。夏季キャンプや野外でのゲームなど、みんなで楽しく活動することで、クラブ員の仲間意識を高めることができるだろう。このように、各地の少年消防クラブでは様々な活動が行われているが、そこには必ず地域の人々との触れあいがある。年齢の異なる子供たちが、少年消防クラブの活動を通して集い、ともに学び、大人に混じって防災行事やボランティア活動に参加する。地域全体が一つの教室なのである。

指導者の思い

昭和63年設立の札幌市「川沿少年消防クラブ」の指導部長山崎英雄氏は、町内会連合会の役員でもある。子供たちの指導に当たり、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」をクラブのモットーに、活動の中で相手の気持ちを思いやる心を育てたいと言

う。また、平成23年に高知県黒潮町で、既存の子供会を母体に「伊田少年消防クラブ」を立ち上げた消防団班長の澤田浩文氏は、クラブへの参加には保護者の理解が不可欠と考え、発足当初に保護者の全員に手紙を出し協力を求めたという。その甲斐あって、初年度から地域の防災総合訓練への参加や1泊の防災キャンプを実施することができた。去る2月に開催された、



少年消防クラブの子供たち

少年消防クラブ指導者研修会において、東日本震災に見舞われた気仙沼市「階上中少年消防クラブ」の指導者大野博之先生が、生徒とともに当時の体験を報告した。避難所となった同校では、炊き出しの配膳、皿洗い、トイレの水くみなど、地域の方々と協力し助け合うことができたという。毎年、気仙沼・本吉広域消防本部の協力により実施し、消防団や自治会も参加する総合防災訓練や普段の防災学習で指導してきたことが活かされたのである。

大野先生は報告の最後に、「生徒たちが自分のためではなく、人のために行動できたことに私たち教員が驚きました」と当時の様子を切々と述べられた。それぞれの地域の熱心な指導者のリードによって、少年消防クラブの子供たちが大きな成長を見せている。

消防団員への期待

今、防災人づくりが言われているが、少年消防クラブの育成には、頑固親父ならぬ指導者が必要だし、ガキ大将ならぬリーダーが絶対に必要な。そのためには、本紙第8号で紹介した中学3年生三好利光君の作文「僕の町の消防団」にもあるように、地域で活動する消防団の存在はとても大きいと思っ



消防団の指導で放水訓練

る消防団の存在はとても大きいと思っ。だから、将来の地域防災の担い手として、「その時行動できる人」を育成するためにも、消防団員の一人一人に期待するし、消防団員の一人一人に私は頼みたい。「どうか少年消防クラブの子供たちのことをよろしくお願いいたします。」平成24年5月31日



《本紙の既刊号は、日本防火協会のホームページ (www.n-bouka.or.jp) からご覧いただけます。》

少年消防クラブの活動

北見地区の少年消防クラブ

北見地区消防組合消防本部予防課 黒澤 ちひろ

北海道

北見地区幼年少年婦人防火委員会では、少年消防クラブ員の防火防災に関する知識の向上とクラブ員の相互の親睦を図ることを目的として、遠軽町にあるキララン清里にて「少年消防クラブ一泊学習会」を開催しました。



2日目は、「来たときよりもキレイに」を合言葉に施設を清掃し、その後北見地区消防組合消防署留辺薬支署へ向かいました。ここでは、車両見学と50ミリホースによる放水訓練を実施しました。「放水はじめ」の掛け声でホースにかかる水圧に驚いた様子を見せていました。標的目掛け一心不乱に放水し、標的を落とした後の「放水やめ」の呼称はとても満足げに聞こえました。

中でも、各種訓練の復習として競い合ったファイヤーマッチでは、班対抗で行われ、防火衣を着装し、巻き結びを作成、バトン代わりにのホースを担いで、習得した全てを出し切り奮闘していました。体を思い切り動かした後では、自分達で熾したバーベキューコンロを囲み、ジンギスカンをお腹いっぱい食べました。夜は火の取扱いと火の始末に気をつけながら、交流はもちろんのこと、なにより仲間と協力することの大切さを学んでいたように感じました。



富丘少年消防クラブ

北海道
富丘少年消防クラブによる「DIG」研修

平成24年1月、3組の家族を含む22名のクラブ員及び指導者によりクラブとして2度目の災害図上訓練(DIG)を実施しました。

「災害に対する認識」を確認する場面では、何となく解っていた事・出来ると思っていた行動が、実は出来ない・考えていなかったという「自分」を知る事が出来ました。

次に「自分が住んでいる地域情報」を落とし込む作業として「災害環境を正しく知る」という場面では、自分にとって助けになる人・建物・場所・物が何故必要なのかという事を正しく理解する事の大切さと、おおきな被害をもたらす災害が自分の地域にはあるという現実を知る大切さを学びました。

「気づき」に繋がり「災害・防災・減災」に対応できる子供たちに育ってくださる事を期待しています。
(指導部長・小林 環)

—救命講習—
富丘少年消防クラブでは、手稲中学校の体育館



で、救命講習を行いました。この講習は、手稲中学校の1、2年生約500人の前で、心肺蘇生法を披露するものです。

この講習が行われた理由は2つです。一つ目は、クラブの日頃の訓練の成果を発揮するためです。クラブ員は、大人が受ける講習と同様の講習を受けています。習得したことが身につけているか、習得したものを皆の前で指導することが出来るかを確かめるためです。二つ目は、もし目の前で友達が倒れたとき、どうすれば良いのか分からない人がほとんどだと思つたので、AEDの使用など心肺蘇生法を多くの人に知ってもらうためです。

当日は、クラブ員全員が緊張しながらも、訓練の成果を十分に発揮できました。(中学3年・山岸 翔)

—放水訓練—
札幌市手稲区で行われた手稲消防団消防総合訓練大会で、中高生生のクラブ員4人が小型ポンプを使用した放水訓練を披露しました。

この放水訓練に向けての練習は3回行いました。1回目の練習では、それぞれ

の役割を覚えるところから始まりました。みな自分の役割を覚えるのに精一杯で、規律正しい動作、大きな声での号令を意識することができませんでした。2回目の練習からは、少しずつできるようになりました。

の役割を覚えるところから始まりました。みな自分の役割を覚えるのに精一杯で、規律正しい動作、大きな声での号令を意識することができませんでした。2回目の練習からは、少しずつできるようになりました。



そして迎えた本番、指揮者の私は大きくはつきりとした号令、1番員はホースの角度、2番員はホースを搬送する位置、3番員は的確なポンプ操作を意識し、少し緊張しながらも一人一人が自分の役割をしっかりと果たすことができました。(高校1年・及川はるか)

福生消防少年団

福生隊班長 福生第二中学校1年 平田 真冬

—少年団に入って感じたこと—
私が4年生の時、たまたま買物に行ったお店に福生消防少年団員を募集している張り紙がありました。その頃、ボラ

ンティアをしたいと思って、私が4年生の時、たまたま買物に行ったお店に福生消防少年団員を募集している張り紙がありました。その頃、ボラ

応援メッセージ



Are you ready?
というキーワードを使用しているプログラムがアメリカにあります。米

国危機管理庁(FEM A)が展開している災害対応プログラムです。

準備はできていますか?

—準備はできていますか?—
という簡単な言葉ですが、私達は来たり来る自然災害に対して準備はできていないのでしょうか? 例えはサンフランシスコの消防隊はノースリッジ

は、入団して一番最初の活動の老人ホーム訪問です。朝、集合してからどう動いていいのか分からず戸惑い困っていたら、リーダーがとても優しく私を指導してくださったので、少しだけ安心することが出来ました。



その日は、老人ホームでらされている重傷者を病院に運び、軽傷者へは治療を現場で施しみんなで見守っていく、実践的なプログラムです。準備はできていますか? を合

言っています。一方で私達の手は、空

世界の災害対応プログラムは今?

少年消防クラブ活性化推進会議専門委員
(米海軍日本管区司令部消防隊予防課長) 長谷川 祐子

した。地域に火災が出たとき自分達で火を消すように消火栓から放水さし、倒れた建物の中から人を救助し(中、軽度の崩壊建物の中から)、救出された人が人をトリアージして、命の危険にさ

らされている重傷者を病院に運び、軽傷者へは治療を現場で施しみんなで見守っていく、実践的なプログラムです。準備はできていますか? を合

「今までは災害で生き残るか否かは運だと思っていた。でも膨大なアンケート結果そうではないことがわかった。生存のための知識と技術をもっていることが鍵である」

少年消防クラブはそのような知恵や技術を与えていく最初の一步になるクラブです。指導者の方達の奮闘振りも素晴らしいもの。欧米にも同じように未来の防災戦士を育てている消防クラブ指導者達がいま。皆さんに応援のメールを贈りたいと思います。

秋川消防少年団

秋川消防署 防災安全係 久保木 律子

—消防団操法大会で訓練成果を披露—
秋川消防少年団は、あきる野市消防団操法大会において訓練

の成果を披露しました。緊迫した雰囲気の中で行われた消防団の操法大会を見学した後、小学生団員は消火器による初期消火訓練を、中学生団員はD級軽可搬ポンプ操法を披露しました。大会を終えた消防団員が消防少年団員の周りに集まり、掛け声や拍手で大きな声援を贈ってくれた中、日頃の訓練の成果を大いに発揮できました。

多くの方々の前で訓練を披露するのは初めての経験でしたが、緊張しながらも訓練どおりに実施でき、大きな拍手をいただいたことで、緊張により強張っていた消防少年団員の顔は自信に満ちた表情に変わっていました。



海老名市少年消防クラブ

リーダー 中学3年 佐藤 亜美

神奈川県

海老名市少年消防クラブに入会して、私が海老名市少年消防クラブに入会したきっかけは、昨年と一昨年の夏休みに、海老名市消防体験学習会に参加した事にあります。その体験学習会では、梯子車の搭乗やAEDの使い方の学習がありました。特に梯子車の搭乗については、今まで乗ることが出来なかったの

で、搭乗した時に見た風景はとても素晴らしいもので感動しました。そして、AEDの学習ですが、学校で見たことがありませんでした。実際に体験してみると、簡単な操作方法で使用する事ができて驚きました。その他人工呼吸の体験や、屋内消火栓操作などを

体験するうちに、消防に興味を持つようになり、海老名市少年消防クラブに入会することを決めました。海老名市少年消防クラブは、今年度発足され小学4年生から中学3年生までの総勢43名で、私は第1期「海老名市少年消防クラブ」のリーダーとなりました。



クラブでの活動は、海老名市の各種イベントに参加することが多く、消防訓練が少ないように感じましたが、規律訓練はさすがに厳しく覚えるのも一苦労でした。また、リーダーとしてクラブ員をまとめることがこれほど難しいものなのかと、改めて感じました。

これからは、受験や卒業等の関係で個人的に忙しくなりますが、残りわずかな時間を海老名市少年消防クラブの一員として過ごしていきたいと思います。

最後に、私は海老名市少年消防クラブでの貴重な体験を、これからの生活に生かしていけたらと思います。

厚南地区少年消防クラブ

指導者協議会 会長 三戸 雅明

山口県

少年消防クラブにたずさわって30余年、クラブ員の防災意識の高揚と、地域に根差した活動をしなくてはと、いつも願っています。意欲が薄れた

「明日の地域防災を担う少年消防クラブ」として開催された2月の少年消防クラブ指導者研修会で、全国の

八女市矢部少年消防クラブ

事務局 入部 恵市

福岡県

防災マップを作成し、八女市矢部少年消防クラブでは、矢部中学校の1年生を加え、クラブ員総勢39名で研修会を実施しました。

以前は、規律訓練、心肺蘇生法等の消防訓練や、矢部村の文化の知識の習得のため、お茶ソムリエの指導のもと八女茶の入れ方体験、



仲間の様子を見聞きし、又いっそうの努力をしなければと思ひ直しました。

モデルクラブで、いただきましたAEDの使用方法など何回も重ねて勉強をして、クラブ員の身につくようにしたいと思ひ、さっそく実施しました。

研修会の主催者あいさつでは、子供達が素直に勉強し地域と一緒に頑張って防災に取り組み、積み重ねて大人の方にも関心を持ってもらうようにと、述べられました。

私も研修会での勉強をもとに初心に帰り、頑張りたいと思ひます。全国の少年消防クラブ関係の皆さん、どうぞよろしく。



講師：轟義夫氏

御前焼の陶芸体験を実施してきましたが、今回は水害に対する学習を行って防災マップを作成しました。

昭和28年に発生した矢部村過去最大の水害の体験をされた轟義夫さんにその当時の様子について講話をいただきました。クラブ員は、自分達が住む地域で発生した水害の話に興味深く聞き入っていました。

その後、4班に分かれ、班ごとに村内の危険箇所、避難場所、避難経路等の探索を行い、工夫を凝らして水害の防災マップを作成し、立派に発表することができました。

クラブ員は、少年消防クラブの活動を通し、矢部村の文化、歴史を知り、自分達矢部村の災害について考え、知識を得ることで、未来の消防団、自衛消防隊のリーダーとして、一歩ずつ進んでくれることでしょう。



宝くじは、 地方自治体の公共事業等に 幅広く使われています。

宝くじの収益金は、
病院や検診車、図書館や動物園、
災害に強い街づくり、
緑あふれる公園、美術館など、
皆様の暮らしに役立てられています。

ワクワク、 ドキドキ。

